



第52回日本肝臓学会総会

横須賀 収

千葉大学名誉教授・JCHO船橋中央病院院長

鈴木 英一郎

千葉大学消化器・腎臓内科

第52回日本肝臓学会が2016年5月19日、20日に千葉市のホテルニューオータニ幕張・東京ベイ幕張ホールにて開催されました。5月に入り天候の変わりやすい日々が続いておりましたが、幸いにも2日間とも好天に恵まれ、3,000名を超える方にご参加いただきました。18日の拡大プログラム委員会では、旧千葉大学第一内科(消化器・腎臓内科)教室出身の小島広成先生夫人の太刀川琴絵さんの奏でるピアノ演奏とともに、南総里見八犬伝の人形劇も楽しめ、学会を盛り上げることが出来ました。

今回のテーマは「肝臓学の新時代に向けて」でした。近年、肝臓学はC型肝炎のIFNフリー治療により、ほとんどのC型肝炎患者が容易に治癒しうる時代に、またB型肝炎についても核酸アナログ製剤により、多くの患者の病態を簡単にコントロールできる時代になりつつあります。しかし、肝臓の治療をはじめ、多くの残された問題もあり、今回の肝臓学会では“新しい肝臓学の時代に向けて、肝臓領域の最新の知見を披露していただくとともに、その根底にある「学問」としての肝臓学にも焦点を当てていただきたい”というのが狙いでした。多くの先生方のおかげで、診断・治療法のもととなる基礎的研究にも十分に配慮した演題をいただくことができました。特別講演、招待講演、招請講演、シンポジウム3題、パネルディスカッション3題、ワークショップ9題、および口演・ポスターで構成され、会長の意図を組んだ構成内容とさせていただきます。

2016年2月にはアジア太平洋肝臓病学会議(APASL)を開催しており海外から多数の参加者がいらっしゃいましたが、本学会も海外からのゲストスピーカーを迎え国際色豊かなものになりました。小池和彦理事長、EASLのSecretary GeneralであるCastera先生の司会の下、JSH-



写真1 学会会場風景

EASL joint meetingもB型肝炎に関して活発の討議がなされました。さらに、肝臓学会のガイドラインに関してもガイドライン作成委員会委員長の滝川一先生に総合司会をしていただき、コンパクトでup to dateなご報告をいただきました。

ここでは、本ジャーナルの趣旨に沿い肝臓中心にご報告したいと思います。

特別講演・招待講演・招請講演

特別講演では京都大学の小川誠司先生から「白血病の起源について」の演題で、癌に共有するゲノムやエピゲノムの変異にともなうダイナミックな発癌過程を、白血病を例にとり、豊富なデータをもとにご講演いただきました。招待講演ではドイツのProtzer先生からB型肝炎の最近の分子学的進歩を中心にお話しいただき、台湾のChuang先生にはC型肝炎のグローバル治療の現状につきご講演いただきました。招請講演では山梨県立中央病